

売春を生きる

セックスワーカーのいた街、セックスワーカーのいる街。

かつて全国各地にあったセックスワーカーのいる街（風俗街）は、法・警察・行政・女性団体等が一体となった「浄化運動」という名の暴力が繰り返されてきたことで、現在姿を消しつつあります。これらはオリンピックなどのメガイベントに伴うジェントリフィケーションや、地域の再開発をめぐる利権とも絡まり合いながら進められてきました。

『沖繩アンダーグラウンド 売春街を生きた者たち』(藤井誠二著、講談社)と『闇の女たち 消えゆく日本人街娼の記録』(松沢呉一著、新潮文庫)は、こうした社会の動きに翻弄されながらも、売春を生きた人々の力強いサバイブのありようを描き切りました。

また、セックスワークをめぐる諸問題に当事者の視点から光を当てた『セックスワーク・スタディーズ 当事者視点で考える性と労働』(SWASH 編、日本評論社)は、当事者不在のまま売買春に関する政策が決められていく現状に警鐘を鳴らしています。

本トークセッションでは、藤井誠二氏、松沢呉一氏、そしてSWASH 代表の要友紀子氏が、「セックスワーカーのいた街」の記憶と、「セックスワーカーのいる街」の現在をつなぎながら、売春をめぐる社会の状況、歴史、法律、道徳、人々の意識、経済、などについて縦横無尽に語り尽くします。

【日時】3/14日(木)▶18:30開場、19:00開演

【会場】**ジュンク堂書店 池袋本店**
4階喫茶スペース 東京都豊島区池袋2-15-5

【入場料】1000円▶▶▶ドリンク付き

【ご予約】ジュンク堂書店池袋本店

TEL 03-5956-6111

先着40名様

刊行記念 トークセッション



当事者視点で考える性と労働



セックスワーク・スタディーズ
SWASH編▶SWASH代表▶要友紀子

かなめゆきこ●1976年、大阪生まれの和歌山育ち。1997年、セックスワークの非犯罪化を要求するグループUNIDOSに参加。1999年、SWASH創設メンバーとなり、2005年からSWASH代表。共著書多数。最近書いた論考は、「セックスワークを通して考える当事者論——個人的なことは政治的なことかつ個人的なこと」(新教出版社発行「福音と世界」1月号所収)、「当事者を搾取しないフェミニズムを考える」(日本女性学研究会女性学年報第39号所収)、「いかがわしくあってはいけない障害者の性——差別撤廃か“部分的権利保障”か」(ニュースサイトSYNODOS掲載)。

●SWASH公式サイト

<http://swashweb.sakura.ne.jp/>



売春街を生きた者たち



沖繩アンダーグラウンド
藤井 誠二▶ノンフィクションライター

ふじいせいじ●1965年、愛知県生まれ。ノンフィクションライター。愛知淑徳大学非常勤講師。教育問題、少年犯罪などの社会的背景に迫る。テレビコメンテーターやラジオ、インターネット放送でパーソナリティも務めている。著書に『人を殺してみたかった—愛知県豊川市主婦殺人事件』、『少年に奪われた人生—犯罪被害者遺族の闘い』、『コリアン・サッカーブルース』、『殺された側の論理—犯罪被害者遺族が望む「罰」と「権利」』、『黙秘の壁—名古屋・漫画喫茶女性従業員はなぜ死んだのか』、共著に『沖繩 大人の社会見学R18』、『肉の王国—沖繩で愉しむ肉グルメ』(ともに仲村清司氏、普久原朝充氏との共著)、『死刑のある国ニッポン』(森達也氏との対談)など50冊以上。



消えゆく日本人街娼の記憶



闇の女たち
松沢 呉一▶フリーライター

まつざわくれいち●1958年生。早稲田大学法学部卒。コラムニスト、編集者、フリーライター、古本蒐集家。会社員として音楽や放送、宣伝関係の仕事に携わるなどしてから、何でもこなせるフリーライターへ。活躍ジャンルは幅広い。ここ最近では社会問題、政治、宗教などにまでテーマを広げて活躍中。性風俗関連の著作は特に膨大。ウェブマガジン「ビバノンライフ」
<https://www.targma.jp/vivanonlife/>
で連日執筆中。

『闇の女たち』(新潮文庫)『ぐろぐろ』(ちくま文庫)『エロ街道をゆく—横丁の性科学』(ちくま文庫)『エロスの原風景—江戸時代〜昭和50年代後半のエロ出版史』(ポット出版)等、著作多数。